→中原・新メディア編集会議

Vol.0

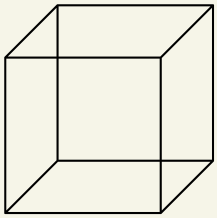
中メに集まれ！

1 現役シニアの働く意味①
3ページ

2 中原歴史訪問 エピソード0　江戸時代に思いを馳せて
4ページ

3 ごちそうさま ～中原グルメ～
5ページ

4 等々力緑地は観光スポット
6ページ



5 「中メ」の可能性・妄想/仮説
7ページ

CONTENTS

ストーリー

現役シニアの働く意味 ①

中原区に在住・勤務経験のある現役シニアに「働く意味」についてお聞きしました。都心への通勤者が多い中原区のシニアはどのように働き、定年・引退後をどう考えているのでしょうか？

昨年(2022年)60歳で定年後、継続延長雇用を選んだ理由は？

Ｋさんは、1988から2014年に中原区のエレクトロニクスメーカー本社勤務後、関東地方にある事業所へ単身赴任、そこで60歳を迎えた。入社以来一貫して品質保証の専門職として活躍してきた。

継続延長雇用で働くことに決めた理由は三つあると言う。「同じ仕事なのに給与は下がるが、年金をもらう65歳までの生活のため」で、「勤務先から専門職として働くことをのぞまれた」ことが最大の理由だそうだ。三つ目の理由はコロナ禍が幸いしたと言う。会社側の感染対策や通勤・出張費の削減で、完全自宅勤務となっていて、延長雇用後も同じ勤務条件になり「通勤電車に乗らなくてもよいのはシニアにとってはありがたかった」からだそうだ。

「延長雇用までしてやりたい仕事ですか？」っていう意地悪な質問に対しての答えは？

「顧客からのクレームに真摯に対応し、かつ、問題なく処理して”当たり前”としか評価されないストレスの多い仕事だった」と言いつつ「現役世代の人手不足を補えることと、これまで培った専門性を継承したい」という強い思いがあったそうだ。

今の若手社員は製造や設計現場に入ることなく、Web会議やビデオから現場で起こっていることを把握し、品質保証やクレーム対応を行わなければならないそうだ。Ｋさんのように現場での長い経験を持つベテランにとっては、リモートによる仕事の進め方は合理的かもしれないが、若手にとって実地経験が積めないのは可哀そうだと言う。

かつて、日本の電子機器製品は高品質で世界市場を席捲したが、今や市場要求にみあった最低限の品質で、コストを下げることが最優先されるようになった。品質保証を担う人員も昔のように潤沢ではないそうだ。

筆者は、彼の言った「専門性の継承」が「シニアの働く意味」を考える上で大きなヒントになると感じた。

シニアがやりがい・働きがいを持てる会社とは？

「この職種は精神的な負担が大きく、フルリモートワークでは世代間のコミュニケーションも容易ではない」と言う。人手不足が続く中、シニアの専門性を積極活用しなければならない会社は、むしろシニアが働きやすい労働環境を提供する時代にきていると感じた。

何歳まで働きたい？引退する時の判断理由は？

現在の延長雇用制度は65歳定年だが、「できれば70歳までは働きたい。今と異なる会社で正規以外の雇用形態で働いてみたい」「金銭のために働くというより孫のお小遣い程度の収入で十分かな？これからは、自分の好きなことをゆっくり楽しむつもりです」と言う。

引退の判断は、「自身の体力・健康を維持できなくなった時でしょうね。これまでと違い有休休暇はしっかり全部取って、精神的・肉体的な体力を維持することで長く働き、趣味も充実させたい」と長い目で将来を見据えるＫさんでした。

最後に、「中原区で働いてよかった点は？」を聞きました

「交通・移動手段、飲食店、買い物、病院などすべてのインフラが身近にあり、とにかく便利な場所でした」現在、お隣の高津区在住で、溝の口駅と比べ武蔵小杉駅周辺の変わりように驚かれていました。「中原区勤務当時は、溝の口周辺の方が都会だったのに」と、ちょっと悔しげでした。

後記：「専門的スキルを磨いておくこと」「ずっと長く働くための心得」は私自身にとって、とても腑に落ちました。感謝！
(向出徳章)

中原歴史訪問

エピソード０　江戸時代に思いを馳せて

中原区在住16年の新米ライターが綴る、中原歴史訪問。
NHK大河“どうする家康”にあやかり、中原街道を通して、江戸時代と令和の現代を繋いでみます。

【参考資料】
玉川の郷土を知る会（旧玉川地域活動団体連絡協議会）
「世田谷ふるさとめぐり　てくたくぶっく」
川崎市民ミュージアム

江戸のスタートはここから！そして、“庶民”のメインストリートに。

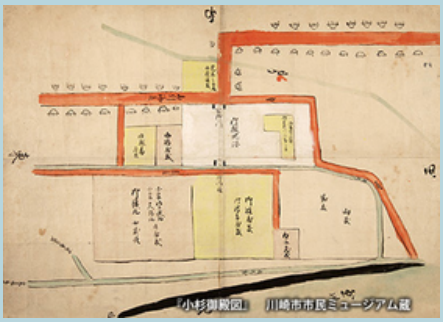
　丸子橋から等々力陸上競技場をかすめ、武蔵中原、武蔵新城へつながる中原区民にはおなじみの道。そんな我らが散歩道を1590年（天正18年）に徳川家康が江戸入りした際に利用したってご存じでした？御殿町、西明寺付近にあった『小杉御殿』は徳川家の鷹狩りの後の休憩所であったとのことですが、その様な歴史があったことは驚きでした。
“家康、江戸を作る“のスタートは中原街道から始まったと、考えてみるのも面白いですね。

　江戸と地方との往来が活発となり、東海道が整備されると大名行列などはそちらに移ったそうです。江戸 - 平塚間をほぼ直線につなぐ街道であるため、沿道の農産物等の運搬する旅人や庶民は、最速ルートとしてこの中原街道を好んで歩いたとされております。
ところどころに祠、馬頭観音、などがあるのはその名残ですね。

　普段何気なく歩いている道も、ちょっと目や気持ちをかたむけると、過去から現代まで、様々な人々の往来に使われ、モノを運ぶだけでなく、ここを歩いた人々の人生そのものを運んだことにも気づかされます。数百年後、この道を歩く人々は今の我々のことをどのように思ってくれるのか？
そんなことに思いを馳せながらの街歩きも楽しみの一つになりました。

江戸と現代をつなぐ

　小杉御殿町付近のおなじみのクランク、基本直線なのになんでここだけ曲がっているのか？
その理由は、ここにあった御殿を守る工夫だったとか。
当時の地図にもしっかり記載されてます。
御殿自体は1670年前後でお役目御免となったそうですが、今でもその名残が色濃く残り、過去と現在を繋ぐ”街道”としての役割も果たしてるところにも歴史を感じます。
さて、川崎市を離れると、電柱ごとにあった中原街道を示す表示の数がぐんと少なくなります。
ここからも中原街道は『**川崎の道**』というイメージが根強いのではないかと思い、より一層中原街道に親しみが湧いてくる今日この頃です。



　最近一部の散歩・ランニング愛好家の間で赤坂から大山街道を通っての大山詣でが流行ってます。
これも江戸時代からの風習の一つですが、中原街道でも何か面白い試みが出来ないかと。
一度江戸～平塚を歩いて（走って）みようと思います。
（むとうごう）

ごちそうさま～中原グルメ～

仕出しそとやまの日替わり弁当

「仕出しそとやま」は1985年に創業した、仕出し料理店です。「そとやまさんなら味もサービスも間違いない」と地元民に絶大な信頼があります。
コロナ禍で冠婚葬祭や企業の各種イベントなどが軒並み減少したため、４年前から不定期に、日替わり弁当（１種類のみ）の販売を始めました。

作り立てをモットーに、お客様が到着してから詰めるふんわりした温かいごはんや、揚げたて熱々の揚げ物などの主菜、仕出しならではの技が光る副菜が入った弁当は、税込み660円。安くておいしくてボリューム満点の日替わり弁当は評判を呼び、横浜から買いに来る人も。人気の弁当は、電話予約のみで完売になるほどです。

しかし相次ぐ原材料の高騰により、昨秋苦渋の決断で、弁当の値上げをすることになりました。店主の外山さんは「なんとか価格を維持したいと頑張ったのですが。力不足で申し訳ありません。」と残念そうでした。ただし一律値上げではなく、その日のメニューによる変動価格という点に、店の良心と営業努力を感じます。

値上げ後も、お客様は離れません。日替わり弁当の写真を掲載したそとやまのインスタグラムのフォロワーは、1000人を超えました。作り手の真心が伝わる、ほかほかの日替わり弁当。末永く続けてほしいので、これからも食べて応援していきます。
（なかじまひろこ）

INFO:「仕出しそとやま」
川崎市中原区上小田中6-14-16
044-733-0403
※日替わり弁当の最新情報はインスタグラムで詳細をご確認ください。

_SOTOYAMA

そとやまの日替わり弁当人気ランキング（2022年度）

第１位　アジフライ弁当

箸で持てない重量級のアジフライ。新鮮なアジは臭みが全くなく、さくふわ食感

第2位　からあげ弁当

弁当箱の蓋がしまらない大ぶりのからあげが４つ。選べるのり弁も絶品

第３位ガーリックライス

香ばしいガーリックライスに、肉とニンニクたっぷりでボリューム満点！

等々力緑地は観光スポット

等々力陸上競技場から武蔵小杉駅方面をのぞむ

多摩川河川敷の散歩コース

武蔵小杉駅から多摩川方面に20分ほど歩くと、サッカーJリーグ川崎フロンターレのホームスタジアム・等々力陸上競技場にぶつかります。このエリアには、他にも野球場やテニスコートなどがあり、緑地内には市民ミュージアムもあります。この等々力緑地は川崎市民にとっては馴染みの場所なのでしょうが、サッカーWカップカタール大会の興奮が冷めやらぬにわかファンの筆者にとって、ぜひとも訪れたい場所だったのです。なぜなら、世界を沸かせた三苫薫や田中碧等、日本代表には川崎市ゆかりの選手が驚くほど多いからです。「サッカーの聖地」ともいえるこのエリアはいまや観光スポットです。

この地を散策したかったのには、もう一つ理由があります。中原区出身の俳優風間トオルさんが育った場所だからです。彼はモデルやトレンディドラマで活躍すると同時に、明石家さんまさんのテレビ番組で貧乏話を披露し多くのファンを驚かせました。その端正な顔立ちからは想像できないほど、幼少期には苦労されていたからです。５歳のときにご両親が離婚され家を出たため、父方の祖父母に育てられたといいます。認知症のおじいちゃんの面倒を見るヤングケアラーでもあり、一方のおばあちゃんは自分たちより貧乏な人たちを見ると助けてしまうような情け深い方だったようです。年金だけでは満足に食べられないため、空腹のあまりカマキリの脚をしゃぶってみたという話は笑いを誘い、いまや伝説になっています。でも、彼は親や社会を恨むこともなく、逞しく飄々と育っていくのです。彼が話す貧乏話は明るく、聞く人を勇気づけてくれるのです。

等々力緑地の一角には風間トオルさんが通った川崎市立西丸子小学校があり、すぐ側の多摩川沿いは格好の遊び場だったはずです。小学校時代にはこんなエピソードがあります。小学生のころからイケメンだった彼は、バレンタインデーに女の子からたくさんのチョコレートをもらったようです。でも、お金がなくて、ホワイトデーにお返しができないため、松ぼっくりに色を塗ってプレゼントしたのだそうです。普通は残念に思われそうなものですが、女の子たちは鞄にそれを下げたりして大切に扱ってくれたのだとか。

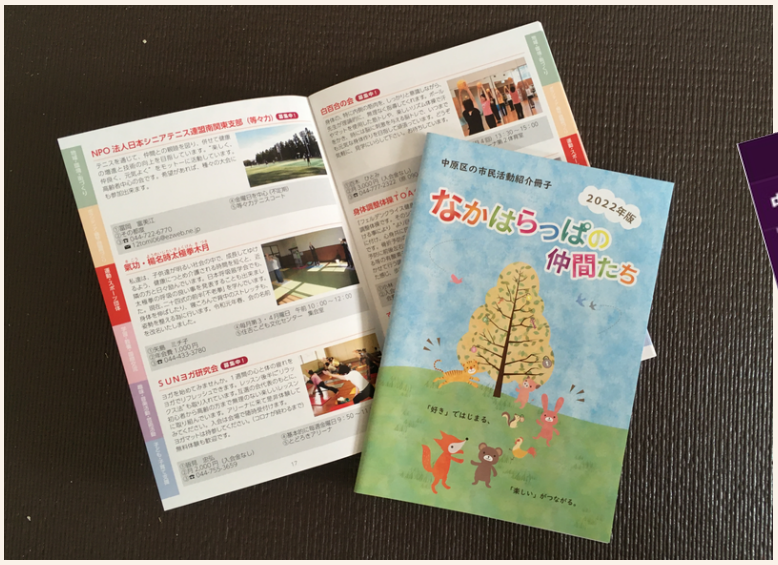
そんな微笑ましい風景を想像しながら、校門前を眺めていたら、近所の方から不審者と思われそうなので、そそくさと退散しましたが。外見も中身も男前な風間トオルさんをリスペクトする私にとっては、等々力緑地はまさに観光スポットなのです。

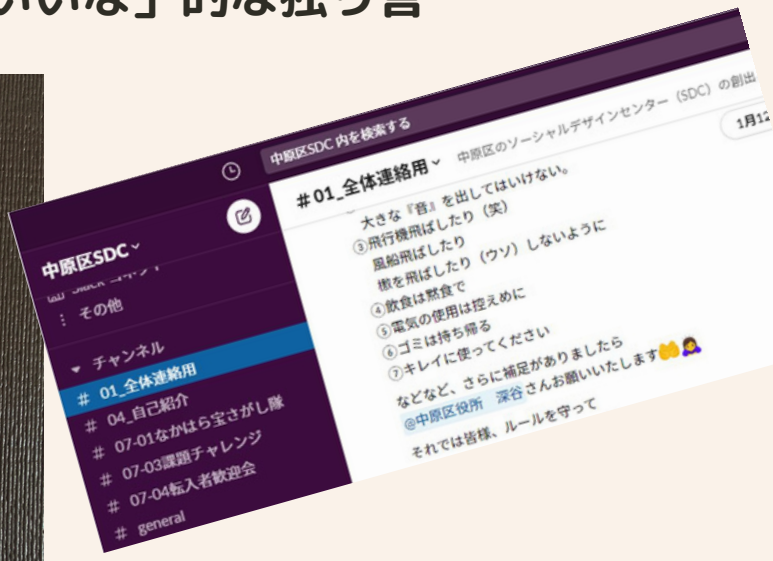
（前田守人）

西丸子小学校の正門

「中メ」の可能性・妄想/仮説

「こんな仕組みができたら、いいな」的な独り言





「中×」は、
・中原区民による
・中原区民のための×ディア、と仮・規定された。
ここに、「新」の意味合いを乗っけるとどうなるか。例えば、新しい試み、新しい活動、新しい考え、などなど。
また、「新」だけに、まだ確定していない、「流動的」な意味合いも含まれるか。
とりわけ、川崎市中原区は、人口流入率が全国でも高い地域。つまり、新しい「活動」「文化」「コミュニティ」等が「交流」「誕生」するには、「現在」、中原区がもってこいの地域と言える。
これを反映するかのように、中原ソーシャルデザインセンター(SDC)の本格始動が動きつつある。また、既存のグループ・団体の活動を「支援」する体制も整いつつある。「なかはらっぱの仲間たち」という、中原区民交流センター「なかはらっぱ」に登録している、サークル団体やボランティアグループ等の市民活動団体を紹介している冊子も充実している。

そこで、「中×」としては、中原SDCの新規企画や、「なかはらっぱ」等の新規活動等を「紹介」「レポート」(報告)するコンテンツはどうだろう。いついつ、どこどこで、こんな企画/活動/講座・セミナー、ワークショップなどなどが予定されている、といった「情報」の一覧ができ、且つ、各団体への参加申込等ができるような仕組みは、有効ではないだろうか。
また、こんな内容だった、との報告等があれば、「じゃ、今度、参加してみよう」といった動機付けにならないだろうか。

ただ、この仕組みを「構築」「運営」するのには、手間がかかることは、容易に想像できる。各団体からの情報収集、関連情報の整理・アップデート作業、etc。
ベストは、「中×」の「プラットフォーム」(一般人に「公開する」サイトの構築と、各団体担当者が入力する「マイページ」的なものを用意し、各団体・組織ごとに、ご用意いただいた中×担当者が、各情報をアップデートしてもらう、といった運用方法だろうか。
当該システムを構築したのなら、中原区に限定せずに、広く、自治体等に有償提供ができるのではないか。

では、初期コストはどうする? クラウドファンディングは活用できないか? などなど、妄想は尽きない。
とは言っても「煮詰まって」きたようなので、一度、ペンを置くことにしよう。

(葉倉峰雄)

向出 徳章

中原区に住んで6年。1985年からずっとサラリーマン。昨年2022年から還暦サラリーマンになりました。「シニアの働き方や幸福感」について50歳ごろから勉強しています。皆さんからいろんな考えをお聞きしたいです。

葉倉　峰雄

「中メ」の言い出しっぺです。まずは、関係者の皆様に「感謝」。
全く形がないところから、事案提案にご賛同いただいた中島さん。雲をつかむような企画の講師になっていただいた前田さん。何をやるのかがあまりわからない企画にご参加いただいた向出さん、武藤さん。皆さん、ありがとう。

前田　守人

大阪育ちで現在阿佐ヶ谷在住。中原区には１０年ほど前に仕事で打ち合わせに来たぐらい。今回、このプロジェクトのおかげでサッカーの聖地、等々力陸上競技場周辺を散歩できました。深掘りしたいエリアです。

武藤　剛

新丸子に移り住んで早16年。
週末は多摩川河川敷を走る市民ランナーです。思った以上に地元の事を知らなすぎるので、この活動を通して様々な事を吸収していきたいと思います。

なかじま　ひろこ

おいしいものが大好きな、中原区民歴20年目の主婦です。お気に入りのお店に行きがちなので、新規開拓したいです。そとやまさんのアジフライ弁当は絶品なので、皆さん、ぜひ食べてみてください。

編集後記

編集:「中メ」編集室
発行:中原ドリームアップ応援隊
発行日:2023年2月11日
連絡先:hakura@juspa.jp(葉倉)